

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H01895

研究課題名(和文) イスラーム国家の王権と正統性 - 近世帝国を視座として

研究課題名(英文) Kingship and Legitimacy of Islamic Dynasties

研究代表者

近藤 信彰 (Kondo, Nobuaki)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：90274993

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、イスラームの王権の通史的な変遷について、従来とは異なる可能性を示したものである。カリフとスルターン概念ですべてを説明してしまう姿勢に見られるような、イスラーム圏の中心を設定して、バグダードからカイロ、イスタンブールへと中心が移っていく古典的単線型の歴史像に対して、複線型の歴史を提案した。北アフリカ・西アフリカのように、そもそもスルターンという概念すら入ってこなかった地域もあれば、ペルシア語文化圏のように、非イスラーム的要素も含めたさまざまな手段によって神聖王権として君臨した地域もあった。そして、従来古典的概念でしか語られなかったオスマン朝も、神聖王権の一つとして理解される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

イスラームの王権のあり方の多様性、地域性を示すことで、多様なムスリム社会のあり方を示すことができた。単にクルアーンやスンナだけに基づくだけでなく、さまざまな文化伝統と接触する中で、イスラーム諸王朝の王権が形成されてきたことが明らかとなった。ペルシア的伝統、テュルク＝モンゴルの伝統、千年王国論、オカルト科学など、さまざまな要素が時の王権を正統化するために援用されてきたのである。これまで、研究者も教義に基づく単純化されたカリフ論、政治論に引きずられる傾向もあったが、歴史研究としてその複雑なあり方を史料に基づいて理解することの重要性を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：This project discussed political authority in Islam, such as the Caliphate and the kingship. When one writes a history of the Islamic World, one tends to write a history of one mainline, starts from Prophet Muhammad, and continues with the Rashidun Caliphs, the Umayyads, the Abbasids, the Mamluks, and the Ottomans. These rulers, except the Prophet, are described as caliphs or sultans. However, this narrative is too simplistic to describe the whole world of Islam and is mostly affected by religious creed. This project tried to highlight other views on Islamic kingship in other regions. In Anatolia, Iran, Central Asia, and North India, after 1258, the term sultan was used by the rulers. However, they used other titles, too, and some of the claims were related to the Caliphate. The term of sacred kingship, first proposed by John Woods in 1998, is more suitable for the rulers of these regions.

研究分野：歴史学

キーワード：イスラーム 王権 カリフ スルタン 神聖王権

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

イスラーム国家の王権やその正統性の研究は、7世紀のイスラームの誕生から語りおこし、預言者ムハンマドからその後継者である正統カリフ、ウマイヤ朝カリフ(661 - 750)、アッバース朝カリフ(750 - 1258)と続き、さらにアッバース家のカリフを擁立したマムルーク朝(1250 - 1517)まで及びるのが通例であった。邦文唯一のこの問題の研究書である佐藤次高『イスラームの国家と王権』(岩波書店, 2004年)は、はまさにこの枠組みで著されている。

イスラーム史に一つの中心を設定して叙述するという方法は、一つのイスラーム圏という一つの単位で叙述する場合、ある意味、単純でわかりやすい。また、イスラームは、単一の信仰共同体として出発したため、イスラーム信仰共同体(ウンマ)は一つのものであるべきであるという教義は、こうしたわかりやすい単線的な説明とも共通点が多い。現実には、アッバース朝期からすでにイスラーム圏は多極化していたのであり、いくらマムルーク朝を叙述しても、その版図に収まっていたエジプト、シリアほか以外については、応用がきかない。また、マムルーク朝の滅亡により、単線的な叙述は行き場を失って、強引にオスマン朝(1299 - 1922)と結びつけてきた。

しかし、確かにエジプト、シリアの征服により、アラブ圏を支配下においたとは言え、もともとオスマン朝はマムルーク朝と並立していた国家であり、どちらかと言えば、東方のアクコユル朝、カラコユル朝などと共通点が多い。そこで、単一のイスラーム史叙述を成立させるために持ち出されてきたのが、オスマン朝がマムルーク朝を滅ぼした際に、カイロにいたアッバース家のカリフからカリフ権を継承したという伝説(スルタン=カリフ制)であった。つまり、アッバース朝からマムルーク朝、オスマン朝と続く「正統的な」イスラーム史の枠組みをこの伝説によって支えてきたわけである。しかし、これを否定してしまうと、単線的な歴史叙述は成り立たなくなってしまう。そこで、Colin Imber 執筆の *The New Cambridge History of Islam, vol.2* (Cambridge, 2011)は、1540年代にスレイマン1世が、神聖ローマ皇帝を名乗ったハプスブルク家への対抗上において、普遍的なイスラーム君主として、カリフの称号を名乗ったとする。確かに、オスマン朝がカリフとしての自覚を持っていたことは確かであるが、一方でインドのムガル朝をもカリフとして認めるファトワーもオスマン朝で発せられている。そうだとすると、オスマン朝のみを単一のカリフと認定しているのは、現代の研究者であるということになる。

問題は、単線型の歴史叙述の連続性が見られないこともさることながら、単一、単線型のイスラーム史では、中心とされなかった地域の事象は完全に捨象されてしまうことである。実際には、750年以降、イスラーム圏は多角化しており、中心とされなかった時代・地域にもムスリムが生活し、「中心」とはあまりかかわらない形で、それぞれの営みを続けてきたにもかかわらず、それを捨象して、イスラーム史を論じるのは合理的ではない。

2. 研究の目的

このような研究状況を踏まえ、古典的な単線型のイスラーム史叙述とは異なった複線型の歴史叙述の構築を目指したのが、本研究の目的であった。特に重視したのはオスマン朝、サファヴィー朝(1501 - 1736)、ムガル朝(1526 - という近世帝国である。なぜなら、イスラーム史上重要な一時期であるにもかかわらず、バグダード→カイロ→イスタンブールと中心が移るような古典的な単線型イスラーム史叙述では、十分な説明が困難であるからである。

同時にこれは、イスラーム文明をどう捉えるかという見方ともかかわっている。イスラームの教義は単一の信仰共同体を想定しており、当然、信徒はそれが正しい信仰のあり方だと考えるし、研究者もそうした教義の影響を受けがちである。しかし、歴史上に存在したイスラーム諸王朝は、もちろん、イスラームの擁護者として振る舞ったが、ほかにもさまざまな手段で自らの支配を固め、正統化しようとした。クルアーンやスンナは政体について多くを語らず、むしろ、サーサーン朝などの過去の諸王朝の制度を取り入れることで、イスラーム諸王朝は成立しえたのであるし、また、テュルク・モンゴルの諸制度も大きな役割を果たした。古典的・単線型でないイスラーム史を構築するために、信仰やイデオロギーとは距離をとり、イスラームと直接かかわらない要素も含めて、現実にあったイスラーム諸王朝を分析することを重視した。

3. 研究の方法

信仰やイデオロギーと距離を取ることのほか、研究の方法として重視したのは、国内外の多くの専門家との共同研究である。なぜなら、イスラーム史は広大な地域を対象とし、使われる史料言語もさまざまなので、一人や少数の研究者ですべてを把握することは困難であるからである。古典的単線型イスラーム史が幅をきかせてきた原因の一つは、少数のアラブ史の研究者が自分で扱うことができる範囲の主にアラビア語の史料に基づいて叙述することで事たれりとしてきた点にある。確かに、アラビア語はイスラーム史において最も重要な言語であるが、9世紀以降、ペルシア語を始めとするアラビア語以外による歴史叙述も始まり、王朝年代記などはペルシア語やテュルク語で著される場合も増えていく。特に、本研究で重視した近世帝国は王朝に関する史料は圧倒的にペルシア語、テュルク語で著されている。さらに、近年は、ギリシア語、サンスクリット語や西アフリカ諸語を用いることができる研究者が現れており、多言語史料による王朝イデオロギーの解明が可能となっている。このような意味で、このテーマの研究にあたっては複数研究者による共同研究が有効であった。

王権を分析する視角としては、A. 称号 / 自称 / 他称、B. 系譜、C. 宗教・法・公正さ、D. 儀礼・宮廷文化の4つを設定した。この視角によって、さまざまな王朝にかかわる文献史料や貨幣史料などを分析していった。

4. 研究成果

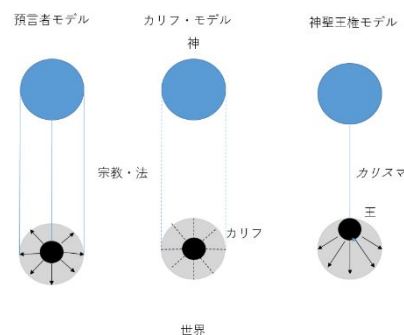
(1) 教科書的なカリフとスルターンというイスラームの王権の基本的な称号は、時代的・地域的限定のものであることが明らかとなった。スルターンという称号は、アッバース朝カリフからセルジューク朝初代君主トゥグリル・ベク（在位 1038 - 63）に与えられたものであり、これをもってスルターン＝カリフ体制が成立したとされる。しかし、スルターンという称号自体、セルジューク朝とその後継王朝において用いられたもので、東方にはやがて東南アジアまで広がるが、西方の北アフリカ、西アフリカには広がらなかった。王朝の君主はカリフやその称号アミール・アル＝ムウミニーン、もしくはそのバリエーションを用いたのである。したがって、カリフと別に政治権力者がいて、スルターンとして統治するという自体、北アフリカや西アフリカでは起こらなかったため、すでにこの枠組み自体が普遍的なものではないことがわかる。

さらに、オスマン朝の君主をスルタンと2次文献で呼ぶ場合があるが、これは同時代の用法ではないこと、同時代のオスマン朝でスルタンと言えば、皇女を示すことが明らかとなった。つまり、スルタンという語は、オスマン朝では決してセルジューク朝とは同じ意味では用いられなかったのである。一方に、オスマン朝が自らをカリフと見なしていたことは確かであるが、1258年以降、北アフリカ・西アフリカ以外でも、王朝君主がカリフの称号を持つことは決して珍しくないことも明らかとなった。ムガル朝やサファヴィー朝ですら、カリフに由来する表現で自らを飾ったのである。すなわち、古典的な意味での信仰共同体全体に君臨するカリフの用法は近代にいたるまで、見ることはできないことを示す。

(2) 系譜に関しては、預言者の血を重んじるイスラーム的な意味でも、テュルク・モンゴルの意味でも、正統性のために重視される局面が観察された。オスマン朝はアダムから始まる旧約聖書の系譜のなかに、自らを位置づけるために系譜書まで作成した。サファヴィー朝はそれに加えて、預言者ムハンマドに連なる血統をさらに書き込んだ。中央アジアにおいては、チンギス・ハーンの子孫のみがハーンとして支配者となることができるという伝統が、18世紀まで続いた。しかし、18世紀以降、系譜の強調は徐々に薄れていき、他の形で正統性を主張するようになっていく。オスマン朝の場合、それはカリフであり、イランのガージャール朝の場合は古代イランであり、チンギス裔でなかったブハラマンギット朝では、カリフに由来するアミール・アル＝ムウミニーンという称号であった。系譜による正統化も、また、一つの手段に過ぎないことをしめしている。

(3) 公正さが王権の正統性において重要なことは当然のことであるが、それがイスラーム諸王朝においても同様であることは、2016年に招聘したオスマン朝研究者の Hakan Karateke 氏が強調していたことでもある。もちろん、イスラーム諸王朝において、イスラーム法とその法廷制度は司法の重要な部分を担っていたが、それとは別に「王の正義」というべき、君主による裁定の伝統も存在した。この「王の正義」をイスラーム法廷と対立する概念ととらえる研究もあるが、文書史料を含めた分析の結果、イスラーム法を主要要素としながら、「王の正義」をも含めた一つのシステムとする見取り図が描けた。

(4) そもそも「王の正義」が実現するためには、王の高い権威が必要となる。それを保証するものとして、儀礼や宮廷文化に注目したが、海外の研究はむしろポスト＝モンゴル期の神聖王権の概念でこれを説明していることが判明した。この概念は図1にあるようなものであるが、アッバース滅亡後、王権がモンゴルの天の概念やスーフィズム、哲学、魔術など、さまざまな手段を通じて、カリスマ性を獲得し、統治を行ったとするものである。2018年に招聘した Huseyin Yilmaz 氏のモノグラフ (Yilmaz 2018) は、この概念をさらにオスマン朝にまで拡大するものであった。彼によるならば、カリフ位も、オスマン朝君主のも一つの「顔」にすぎないことになる。このポスト＝モンゴル期の王権についての研究はアメリカを中心に大きな勢力となっており、本研究はこれを我が国の学会に紹介する契機となった。さらに、この神聖王権の概念の応用についての時代的限定性 おそらくは、時代が下るにつれより律法主義的イスラームが強くなっていく ことも、見通しとして得ることができた。



Yilmaz, Huseyin 2018. *Caliphate Redefined*. Princeton.
Woods, John. 1998. *The Aqqyunlu*. Salt Lake City.

図1 Woods 1998:7

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計49件（うち査読付論文 21件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 22件）

1. 著者名 Kondo Nobuaki	4. 巻 12
2. 論文標題 How to Found a New Dynasty: The Early Qajars ' Quest for Legitimacy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Persianate Studies	6. 最初と最後の頁 261 ~ 287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1163/18747167-12341336	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Ogura Satoshi	4. 巻 12
2. 論文標題 In This Corner of the Entangled Cosmopolises: Political Legitimacies in the Multilingual Society of Sultanate and Early Mughal Kashmir	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Persianate Studies	6. 最初と最後の頁 237 ~ 260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1163/18747167-12341338	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Binbas Evrim	4. 巻 12
2. 論文標題 The Jalayirid Hidden King and the Unbelief of Shah Mohammad Qara Qoyunlu	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Persianate Studies	6. 最初と最後の頁 206 ~ 236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1163/18747167-12341340	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Otsuka Osamu	4. 巻 12
2. 論文標題 The Hazaraspid Dynasty 's Legendary Kayanid Ancestry: the Flowering of Persian Literature under the Patronage of Local Rulers in the Late Il-khanid Period	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Persianate Studies	6. 最初と最後の頁 181 ~ 205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1163/18747167-12341334	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morimoto Kazuo	4. 巻 12
2. 論文標題 Introduction: Kingship and Political Legitimacy in the Persianate World	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Persianate Studies	6. 最初と最後の頁 175 ~ 180
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1163/18747167-12341339	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真下裕之、二宮文子、和田郁子	4. 巻 47
2. 論文標題 アブル・ファズル著『アーイーニ・アクバリ』訳注(8)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 神戸大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 81 ~ 128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 真下裕之	4. 巻 15
2. 論文標題 ムガル帝国における贈与儀礼とマンサブ制度	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 49-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Retsu Hashizume	4. 巻 1
2. 論文標題 Textual Criticism of the Manuscripts of Ibn Khaldun's Autobiography	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 In the Author's Hand: Holograph and Authorial Manuscripts in the Islamic Handwritten Tradition	6. 最初と最後の頁 300-322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1163/9789004413177_010	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Retsu Hashizume	4. 巻 29
2. 論文標題 Recruitment of Intellectuals in an Early Islamic Society: Mainly in the Buwayhid period	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Historia Scientiarum	6. 最初と最後の頁 198-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 近藤 信彰	4. 巻 826
2. 論文標題 アジアにおける『ハムザ物語』 イスラーム、ペルシア語、フロンティア	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 8-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoichi Takamatsu	4. 巻 51
2. 論文標題 Osmanli Belge Yonetiminde Kesilmis Hatt-i Humayunlar	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of Ottoman Studies	6. 最初と最後の頁 115-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高松 洋一	4. 巻 980
2. 論文標題 トルコ・イスタンブル (旧)首相府オスマン文書館(大統領府オスマン文書館)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 38 - 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jun Akiba	4. 巻 51
2. 論文標題 Sharia Judges in the Ottoman Nizamiye Courts	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of Ottoman Studies	6. 最初と最後の頁 209-237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤 裕加子	4. 巻 62
2. 論文標題 サファヴィー朝宮廷の女性たち 近世イスラーム王朝女性史研究の展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 お茶の水史学	6. 最初と最後の頁 215-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 真下裕之、二宮文子、和田郁子	4. 巻 46
2. 論文標題 アブル・ファズル著『アーイーニ・アクバリ』訳注(7)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 神戸大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 27-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi Ogura	4. 巻 86
2. 論文標題 Persian Historiography of Kashmir during the Gahangir Period I: The Intihab-i Tarih-i Kasmir	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 145-293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小倉智史	4. 巻 88
2. 論文標題 カシミール史料におけるミールザー・ハイダル	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 20-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Osamu Otsuka	4. 巻 47
2. 論文標題 Qashani, the First World Historian: Research on His Uninvestigated Persian General History, Zubdat al-Tawarikh	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Studia Iranica	6. 最初と最後の頁 119-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Morimoto	4. 巻 53
2. 論文標題 A Mid-Fifteenth-Century Attestation of the Muhammad Shahi Isma'ilis: Between Khudawand Muhammad and Shah Tahir Dakani	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 95-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jun Akiba	4. 巻 51
2. 論文標題 Shari' a Judges in the Ottoman Nizamiye Courts, 1864-1908	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Osmanli Arastirmalari	6. 最初と最後の頁 209-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Ogasawara	4. 巻 48
2. 論文標題 The Quest for the Biblical Ancestors: the Legitimacy and Identity of the Ottoman Dynasty in the Fifteenth-sixteenth Centuries	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Turcica	6. 最初と最後の頁 37-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2143/TURC.48.0.3237135	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真下裕之、二宮文子、和田郁子	4. 巻 45
2. 論文標題 アブル・ファズル著『アーイーニ・アクバリ』訳注(6)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神戸大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81010197	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 真下裕之	4. 巻 86
2. 論文標題 クトゥブ・シャーヒー朝の起源に関する諸説とその周辺：インド洋西部海域における人的移動の諸相	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 112-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松洋一	4. 巻 699
2. 論文標題 オスマン朝のハットゥ・ヒュマーユーン(宸筆)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 歴史と地理	6. 最初と最後の頁 26-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水和裕	4. 巻 950
2. 論文標題 初期イスラーム時代の奴隷女性と境域の拡大	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真下 裕之・二宮文子・和田郁子	4. 巻 44
2. 論文標題 アブル・ファズル著『アーイーニ・アクパリー』訳注 (5)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『紀要』(神戸大学文学部)	6. 最初と最後の頁 49-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ayako Ninomiya	4. 巻 1
2. 論文標題 A note on wilaya and competitions of sufi saints in Medieval India	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 History, Literature and Scholarly Perspectives South and West Asian Context.	6. 最初と最後の頁 119-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚 修	4. 巻 91
2. 論文標題 『集史』第2巻「世界史」校訂の諸問題 : モハンマド・ロウシャンの校訂本に対する批判的検討を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 41-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 近藤 信彰	4. 巻 1
2. 論文標題 「近世イスラーム国家」の概念をめぐって	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 近世イスラーム国家史研究の現在	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nobuaki Kondo	4. 巻 1
2. 論文標題 The Shah 'Abd al-'Azim Shrine and its Vaqf under the Safavids	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Mapping Safavid Iran	6. 最初と最後の頁 41-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小笠原 弘幸	4. 巻 1
2. 論文標題 史料解題 タンズイマート期・アブデュルハミト二世期に作成された歴史教科書	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 近世イスラーム国家史研究の現在	6. 最初と最後の頁 361-290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Ogasawara	4. 巻 3
2. 論文標題 Osmanli Hanedani'nin Atasi Olarak Kayi Han'in Secilmesi: Veraset Usulu Acsindan Bir Bakis	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 XVI. Turk Tarih Kongresi 20-24 Eysel 2010, Ankara: Kongreye Sunulan Bildirler.	6. 最初と最後の頁 525-533
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小笠原 弘幸	4. 巻 1
2. 論文標題 オスマン朝におけるヨーロッパ認識の伝統と革新 - 一七世紀中葉以前の北西ユーラシア観を中心に -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 北西ユーラシア歴史空間の再構築	6. 最初と最後の頁 261-290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Mashita	4. 巻 2
2. 論文標題 Asad Beg Qazvini	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 The Encyclopaedia of Islam, THREE,	6. 最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 真下 裕之	4. 巻 1
2. 論文標題 17世紀初頭デカン地方のペルシア語史書Tadki rat al-Mulukについて	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 近世イスラーム国家史研究の現在	6. 最初と最後の頁 197-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 真下裕之監修・二宮文子・真下裕之・和田郁子訳注	4. 巻 43
2. 論文標題 アブル・ファズル著『アーイーニ・アクバリー』訳注 (4)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 神戸大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 35-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 真下 裕之	4. 巻 1
2. 論文標題 近世南アジアにおける人的移動の記録と記憶 : デカンのムスリム王朝の出自説をめぐって	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 移動と交流の近世アジア史	6. 最初と最後の頁 33-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松 洋一	4. 巻 1
2. 論文標題 勅令の「裏側」を読む 大宰相府伝来の勅令正文に関する一考察	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 近世イスラーム国家史研究の現在	6. 最初と最後の頁 299-328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高松 洋一	4. 巻 44
2. 論文標題 Evliya Celebi Seyahatnamesi ' ne Gore Bitlis ' te " Abdal Han ' in Kutphanesi	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Journal of Turkish Studies	6. 最初と最後の頁 419-436
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yukako Goto	4. 巻 1
2. 論文標題 Development of Transport and Growth of Cultural Homogenization in the later Safavid Period	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 Mapping Safavid Iran	6. 最初と最後の頁 96-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 二宮 文子	4. 巻 1
2. 論文標題 イスラームにおける奇跡と驚異	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 <驚異>の文化史 中東とヨーロッパを中心に	6. 最初と最後の頁 42-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋葉 淳	4. 巻 1
2. 論文標題 帝国とシャリーア：植民地イスラーム法制の比較と連関	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 ユーラシア近代帝国と現代世界	6. 最初と最後の頁 44-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村 暁	4. 巻 1
2. 論文標題 マンギト朝政権の対シーア派聖戦とメルヴ住民の強制移住	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 移動と交流の近世アジア史	6. 最初と最後の頁 59-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚 修	4. 巻 58
2. 論文標題 イルハーン朝末期地方政権におけるペルシア語文芸活動の隆盛：ハザーラス朝君主ヌスラト・アッディーンの治世を事例として	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 オリエント	6. 最初と最後の頁 40-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚 修	4. 巻 168
2. 論文標題 ハーフィズ・アブラーの歴史編纂事業再考：『改訂版集史』を中心に	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 東洋文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 245-289
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大塚 修	4. 巻 91
2. 論文標題 『集史』第2巻「世界史」校訂の諸問題：モハンマド・ロウシャンの校訂本に対する批判的検討を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 41-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Morimoto	4. 巻 2016
2. 論文標題 Ibn Inaba	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Encyclopaedia of Islam, 3rd ed.	6. 最初と最後の頁 0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Morimoto	4. 巻 16
2. 論文標題 Tadwin, al-	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Encyclopaedia Iranica	6. 最初と最後の頁 0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Morimoto	4. 巻 44
2. 論文標題 An Enigmatic Genealogical Chart of the Timurids: A Testimony to the Dynasty's Claim to Yasavi- `Alid Legitimacy	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Oriens	6. 最初と最後の頁 0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計96件 (うち招待講演 27件 / うち国際学会 57件)

1. 発表者名 近藤 信彰
2. 発表標題 ガージャール朝『王室財産・ワクフ財台帳』の再検討
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 A Turko-Mongol Tradition: Bahadur Khan as a title of Sovereigns in West and Central Asia
3. 学会等名 Fudan University, Special lecture (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 From Prophet's Companion to the Monotheist Romance Hero: The Hamza-nama in the Global Context
3. 学会等名 Consortium for Asian and African Studies (CAAS) 10th Symposium "Cultural Expression in the Era of Globalization (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jun Akiba
2. 発表標題 The Governor's Divan and the Sharia Court: Administration of Justice in the Ottoman Provinces during the Eighteenth Century
3. 学会等名 Lecture at Department of History, Bilkent University, Bilkent University, Ankara (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroyuki Ogasawara
2. 発表標題 Creating New Muslim History: Turkish Experience in the Early 20th century
3. 学会等名 17th Annual International Conference on History & Archaeology: From Ancient to Modern (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroyuki Ogasawara
2. 発表標題 Development of the Turkish Historical Thesis during the Early Period of the Republic of Turkey
3. 学会等名 War & Independence: Trauma, Memory, and Modernity in the Young Turkish Republic (1908-1950) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤裕加子
2. 発表標題 ペルシア語文化圏の写本制作と宮廷図書館 サファヴィー朝を中心に
3. 学会等名 日本オリエント学会第61回大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後藤裕加子
2. 発表標題 春分と十二支 サファヴィー朝年代記のトルコ暦採用
3. 学会等名 東洋学・アジア研究連絡協議会シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Morimoto
2. 発表標題 Why Have the Descendants of the Prophet Muhammad Migrated So Widely?
3. 学会等名 Ito International Research Center Symposium "Crossing Boundaries: Migration, Mediation, Morality(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Osamu Otsuka
2. 発表標題 Review on Part IV The Later Middle Period (ca. 1258-1453)
3. 学会等名 Book Launch of the Wiley Blackwell History of Islam(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Morimoto
2. 発表標題 Mushajjars: Multi-Folio Genealogical Charts of the Prophet Muhammad's Kinfolk
3. 学会等名 Genealogical Manuscripts: A Cross-Cultural Perspective(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大塚修
2. 発表標題 ティムール朝期歴史編纂事業再考 - 『ジャアフアリーの歴史』を中心に
3. 学会等名 日本オリエント学会第61回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 Conditional Sales' and Other Types of Loans in Qajar Iran
3. 学会等名 Transactions and Documentation in the Persianate World (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nobuaki Koondo
2. 発表標題 Ahamiyat-e noskhe-e badal dar tashih-e matn: tajrobe-e tashih-e dastur al-moluk dast-afzari-e bara-ye tashkilat-e divani-e dowre-e safaviye
3. 学会等名 International conference Nasakh-e khatti-e farsi be-masabe-e miras-e jahani (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 Pishine-e tahqiq bar dastur al-mokuk
3. 学会等名 Special Lecture, Academy of Persian Language and Literature, Iran (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 Confessional Minorities in Nineteenth Century Tehran
3. 学会等名 9th Symposium, Consortium for Asian and African Studies (CAAS) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 近藤 信彰
2. 発表標題 中東における宗派紛争：歴史と現在
3. 学会等名 第13回四大学連合文化講演会「環境・社会・人間における「安全・安心」を探る - 安全で安心の出来る社会 - (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 Sunni Rule over Shi' i Population: Legitimation of Afghan Rulers in Iran, 1722-29
3. 学会等名 International Conference "Kingship, Ideology, Discourse: Legitimation of Islamicate Dynasties" (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 A'in-i akbari as a Tazkira of Poets.
3. 学会等名 The Sixth Perso-Indica Conference "The Classification of Indic knowledge at the Mughal court: the A'in-i Akbari (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jun Akiba
2. 発表標題 The Judiciary and Fiscal Transformation in the Ottoman Empire, 1700-1839
3. 学会等名 Seminar Talk at Department of History, Stanford University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jun Akiba
2. 発表標題 The Historian Semdanizade Suleyman (d. 1780): A Deputy Judge and Intellectual in the Ottoman Empire
3. 学会等名 Research Talk at Department of History, University of California, Davis (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Osamu Otsuka
2. 発表標題 The Flowering of Persian Literature under the Patronage of the Hazaraspid Dynasty: How did Local Rulers Legitimate Their Rule in the Late Ilkhanid Period
3. 学会等名 International Conference "Kingship, Ideology, Discourse: Legitimation of Islamicate Dynasties (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaki Sugiyama
2. 発表標題 For the Sufi Shaykh or for the "Mahdi's Son"?: The Re-examination of the Relation between Sultan Husayn Mirza and Shah Qasim Faydbakhsh
3. 学会等名 International Conference "Kingship, Ideology, Discourse: Legitimation of Islamicate Dynasties (国際学会)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Retsu Hashizume
2 . 発表標題 Lutfi Pasha ' s theory of the caliphate
3 . 学会等名 International Conference “ Kingship, Ideology, Discourse: Legitimation of Islamicate Dynasties (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hiroyuki Mashita
2 . 発表標題 Contextualizing the So-called A ' in-i Akbari in the Mughal Historiography
3 . 学会等名 The Sixth Perso-Indica Conference “ The Classification of Indic knowledge at the Mughal court: the A'in-i Akbari (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Ayako Ninomiya
2 . 発表標題 Analyzing Intellectual Milieu of A ' in-i Akbari
3 . 学会等名 The Sixth Perso-Indica Conference “ The Classification of Indic knowledge at the Mughal court: the A'in-i Akbari (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Satoshi Ogura
2 . 発表標題 The A ' in-i Akbari and Western Indology: With Special Reference to the Category of the Six Schools of Philosophy
3 . 学会等名 The Sixth Perso-Indica Conference “ The Classification of Indic knowledge at the Mughal court: the A'in-i Akbari (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 亀谷 学
2. 発表標題 アップース朝期におけるカリフ觀の変容
3. 学会等名 日本オリエント学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤健太郎
2. 発表標題 西方のカリフ政權とイブン・ハルドゥーン
3. 学会等名 日本オリエント学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森本一夫
2. 発表標題 モンゴル支配期以降のペルシア語文化圏における統治の正統性と政治的權威 近年の研究動向
3. 学会等名 日本オリエント学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ayako Ninomiya
2. 発表標題 Religious Endowments in South Asia under the Colonial Rule: The Case of Dargah Salar Mas`ud
3. 学会等名 International Conference of History and Governance of Awqaf in India and Malaysia: Colonial Interventions and Modern States (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大塚 修
2. 発表標題 人類の起源を求めて：前近代ムスリム知識人による諸民族の系譜の創造
3. 学会等名 2018年度西洋史研究会大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satoshi Ogura
2. 発表標題 Between Story and History: Various attitudes toward Kashmir 's pre-Islamic past by historians of the Mughal period
3. 学会等名 International Conference on Persianate Literature in India and Anatolia（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 The Early Qajar Form of Political Authority
3. 学会等名 8th Biennial Convention, The Association for the Study of Persianate Societies（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 Islamic Law and Qajar Society
3. 学会等名 Iranian Studies Initiative at NYU（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 Islamic Law and Society in Iran: A Social History of Qajar Tehran. ”
3. 学会等名 Book Lunch, Royal Asiatic Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秋葉 淳
2. 発表標題 ディーワーンと法廷：18世紀オスマン帝国の地方における司法行政
3. 学会等名 日本中東学会第33回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jun Akiba
2. 発表標題 Ottoman Venality, or Tax Farming of Judicial Offices in the Ottoman Empire, c.1700-1839
3. 学会等名 Shari'a Workshop (New York: Columbia University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大塚修
2. 発表標題 歴史家カーシャーニーの付度：二人の名宰相ラシード・アッディーンとアリーシャーの狭間で
3. 学会等名 2017年度内陸アジア史学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Osamu OTSUKA
2. 発表標題 Kingship and Titles of Ilkhanid Rulers: Did They Really Proclaim Themselves Padshahan-i Iran?
3. 学会等名 The Eighth Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中町信孝
2. 発表標題 アラブが見た「モンゴル襲来」：アイン・ジャールートからISまで
3. 学会等名 日本中東学会第33回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satoshi Ogura
2. 発表標題 Political Legitimacies and Their Perceptions in the Multilingual Society of Sultanate and Early Mughal Kashmir
3. 学会等名 The Eighth Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satoshi Ogura
2. 発表標題 Kasmir and the Mongols: Who invaded the valley in 1320?
3. 学会等名 Deutscher Orientalistentag 33 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Satoshi Ogura
2. 発表標題 Kalhana's 'victory' over Rashid al-Din: contesting pre-Islamic histories of Kashmir during the Jahangir period
3. 学会等名 International Workshop on Pre-modern Kashmir 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ilker Evrim Binbas
2. 発表標題 Contractual Political Ideas in the Timurid Period
3. 学会等名 The Eighth Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年～2019年

1. 発表者名 Kazuo Morimoto
2. 発表標題 The Earliest 'Alid Genealogy for the Safavids Revisited
3. 学会等名 The Eighth Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Golriz Farshi
2. 発表標題 A Struggle for Legitimacy: Tarikh-i Sultan Muhammad-i Qutb Shahi
3. 学会等名 The Eighth Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Giorgio Rota
2. 発表標題 Lessons Hard Learnt: Legitimacy and Survival in post-Safavid Persia, 1722-1796
3. 学会等名 The Eighth Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋爪烈
2. 発表標題 ルトフィー・パシャのカリフ論:その思想的背景について
3. 学会等名 日本中東学会第33回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 橋爪烈
2. 発表標題 プワイフ朝の成立とジバル、ファールス系官僚の台頭
3. 学会等名 平成29年度九州史学会大会イスラム文明学部会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuo Morimoto
2. 発表標題 Islamic Studies and the Study of Sufism in Academia: Rethinking Methodologies, " Sayyido-Sharifology Twelve Years Later
3. 学会等名 st International Symposium of Kenan Rifai Center for Sufi Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kazuo Morimoto
2. 発表標題 Why Was Genealogy of the Prophet 's Family Studied in the Twelver Shi'i Centers in Iran (12th-15th c.)?
3. 学会等名 Die Tausend Jahrige Schule der Schia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 近藤 信彰
2. 発表標題 19 世紀後半テヘランの宗教的少数派 シャリーア法廷記録より
3. 学会等名 日本中東学会第32回年次大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 近藤 信彰
2. 発表標題 サファヴィー朝君主の称号について
3. 学会等名 シンポジウム「イスラームの王権をみる視角」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 Making a Persianate Society: Literati Migration to Mughal India
3. 学会等名 Consortium for Asian and African Studies Symposium "Crossing the Boundaries: Asian and Africans on the Move. (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 State and Shari ' a in Early Modern Iran
3. 学会等名 International Workshop " State and Shari ' a in the Pre-20th Century Middle East. " (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 秋葉 淳
2. 発表標題 君主の正義とシャリーアの正義 18世紀オスマン帝国におけるディ ーワーンと法廷
3. 学会等名 シンポジウム「イスラームの王権をみる視角」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Jun Akiba
2. 発表標題 The Governor ' s Divan and its Successors: Judicial Authority in the Ottoman Provinces, 18th to 19th Centuries
3. 学会等名 International Workshop " State and Shari ' a in the Pre-20th Century Middle East. " (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 OGASAWARA Hiroyuki
2. 発表標題 "The Mongol and Genghis Khan in the Ottoman Historiography"
3. 学会等名 International Workshop, " Authority, Legitimacy and Historiography in the Ottoman Empire" (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 OGASAWARA Hiroyuki
2. 発表標題 The Identity and Legitimacy through the Ottoman Genealogical Tree Development
3. 学会等名 19th Annual Mediterranean Studies Association Internatinal Congress (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 OGASAWARA Hiroyuki
2. 発表標題 Solving the Ottoman Genealogical Puzzle
3. 学会等名 One-day Workshop: State, Religion, and Authority in the Post-Mongol Persianate World and Beyond (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 清水 和裕
2. 発表標題 アッパース朝統治体制をめぐる黒色のシンボリズム
3. 学会等名 シンポジウム「イスラームの王権をみる視角」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 清水 和裕
2. 発表標題 初期イスラーム時代の奴隷女性と境域の拡大
3. 学会等名 2016年度歴史学研究会大会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 後藤 裕加子
2. 発表標題 サファヴィー朝初期の首都タブリーズの王宮地区
3. 学会等名 日本中東学会第32回年次大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yukako Goto
2. 発表標題 Rethinking the Transfer of the Safavid Capital from Tabriz to Qazvin
3. 学会等名 Iranian Studies in Eurasia: Past, Present and Future (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 二宮 文子
2. 発表標題 デリー・サルタナト後期におけるイスラーム的系譜意識と王権
3. 学会等名 シンポジウム「イスラームの王権をみる視角」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Osamu Otsuka
2. 発表標題 Qashani and Rashid al-Din: A New Perspective on Ilkhanid Historiography
3. 学会等名 Workshop: Dynamics in Middle Eastern Societies during the Mongol Period (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 "State and Shrine in Iran: Waqf Administration of the Shah ' Abd al- ' Azim Shrine under the Qajars "
3. 学会等名 The Fourth International Symposium of Inter-Asia Research Networks " Comparative Study of the Waqf from the East: Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations. (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 Multiconfessionalism in 19th Century Iran: Jews in Qajar Tehran, a Reappraisal
3. 学会等名 Seminar fur Arabistik/Islamwissenschaft am Orientalischen Institut (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 近藤 信彰
2. 発表標題 明治・大正期における日本・イラン関係
3. 学会等名 国際シンポジウム「日本 - イラン関係史」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 小笠原 弘幸
2. 発表標題 古典期オスマン帝国における「スルタン」号について
3. 学会等名 日本中東学会第31回年次大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 小笠原 弘幸
2. 発表標題 公定歴史学と教科書 - トルコ共和国における「正史」と歴史教育
3. 学会等名 九州史学会2015年大会全体シンポジウム「正史の近代 修史事業と歴史学」
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 真下 裕之
2. 発表標題 インドのムスリム諸政権とカリフ：デリー・スルターン朝時代からムガル帝国時代へ
3. 学会等名 九州史学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 高松 洋一
2. 発表標題 オスマン朝君主の呼称と称号 パーディシャー、カリフ、スルタン
3. 学会等名 近世イスラーム国家と周辺世界 研究会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 高松 洋一
2. 発表標題 マフムト 1 世による Ayasofya 図書館の蔵書形成 歴史書を中心として
3. 学会等名 日本オリエント学会年次大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 高松 洋一
2. 発表標題 オスマン朝の勅令起草過程で作成される文書類型について 大宰相府と財務長官府の協働の観点から
3. 学会等名 東洋史研究会大会 (招待講演)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yoichi Takamatsu
2. 発表標題 I. Mahmud ' un Istanbul ' da kurduđu Uc Kutuphane: Ayasofya, Fatih ve Galatasaray Kutphaneleri
3. 学会等名 XVIII. Yuzyil Osmanli Kitap Koleksiyonerleri: Bilgi Uretimi ve Dagilim (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Yukako Goto
2. 発表標題 Tabriz under the Safavids; Its political position, construction, and development
3. 学会等名 The 8th European Conference of Iranian Studies (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 二宮 文子
2. 発表標題 19世紀北インドの聖者廟の資産についての分析：サーラル・マスワード廟の事例
3. 学会等名 日本南アジア学会第28回全国大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 二宮 文子
2. 発表標題 英領インド行政とムスリム聖者廟
3. 学会等名 九州史学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 秋葉 淳
2. 発表標題 裁判官とその発給文書：18 世紀オスマン朝歴史家 = 裁判官シェムダーニーザーデ・フンドゥクルル・スレイマンの業績
3. 学会等名 日本中東学会第 31 回年次大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 秋葉 淳
2. 発表標題 18世紀オスマン帝国の裁判官のプロフィール：遺産目録を史料として
3. 学会等名 第57回日本オリエント学会年次大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 秋葉 淳
2. 発表標題 女性・ジェンダー史からみえるオスマン帝国の社会
3. 学会等名 2015年度NIHUイスラーム地域研究合同集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kazuhiro Shimizu
2. 発表標題 he Color Black under the Abbasid Caliphate
3. 学会等名 International Convergence "New Horizons in Islamic Area Studies" (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Osamu Otsuka
2. 発表標題 Abu al-Qasim Qashani 's Zubdat al-Tawarikh and the Historiography of the Late Ilkhanid Period
3. 学会等名 International Workshop: Persian and Chinese Historiography in the Mongol Empire (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Osamu Otsuka
2. 発表標題 Visualising General History: Hamd Allah Mustawfi 's New Style of Historical Writing
3. 学会等名 日本中東学会第31回年次大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Osamu Otuka
2. 発表標題 Hamd-Allah Mustawfi and Iran-zamin: With a Special Reference to the Unexamined Source, the Dhayl-i Zafar-nama
3. 学会等名 The Seventh Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 大塚 修
2. 発表標題 イルハーン朝君主の称号と王権：イラン概念研究の視点から
3. 学会等名 九州史学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Kazuo Morimoto
2. 発表標題 The Identity of Sayyid Ibn 'Abd al-Hamid, a Close Associate of Ozbek Khan
3. 学会等名 The Seventh Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Kazuo Morimoto
2. 発表標題 Jaygah-i Sabzawar dar shabaka-i Shi' iyan-i Dawazda Imami dar Dawra-i Pishin-i Taymuri
3. 学会等名 Kungra-i Baynul-milali-yi Sarbadaran (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Kazuo Morimoto
2. 発表標題 Jadhdhabyat-i pazhuhish-ha-yi tarikhi;: Cheguna yafta-ha-yi juz' i u parakanda dar bazsazi-yi tarikhi ahammiyat mi yaband?
3. 学会等名 Sukhanrani-yi `Ilmi-yi Danishkada-i `Ulum-i Insani-yi Danishgah-i Firdawsi-yi Mashhad (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 橋爪 烈
2. 発表標題 貨幣資料からみた初期ブワイフ朝の権力構造
3. 学会等名 九州史学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 藤波 伸嘉
2. 発表標題 愛国としての法学 イブラヒム・ハックとオスマン公法学の展開
3. 学会等名 九州史学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 木村 暁
2. 発表標題 18世紀プハラの年代記『ハンへの贈り物』について 史料論と王権論からの略考
3. 学会等名 九州史学会大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 Satoshi Ogura
2. 発表標題 Laksmi Becomes Dawla: Remarks on the Translation Strategies of Notions of Kingship in a Persian Translation of the Rajatarangis and the Following Chronicles
3. 学会等名 International Workshop: Islam, Kingship, and Legitimacy in South Asia (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 A. Azfar Moin
2. 発表標題 Universal Peace and Sun Worship in Mughal India: A “Hermetical” Revival in Islam?
3. 学会等名 International Workshop: Islam, Kingship, and Legitimacy in South Asia (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 岸本美緒；真下裕之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 304
3. 書名 1571年 銀の大流通と国家統合	

1. 著者名 千葉 敏之；大塚修	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 277
3. 書名 1187年 巨大信仰圏の出現	

1. 著者名 Nobuaki Kondo	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 362
3. 書名 Dastur al-Moluk: A Complete Edition of the Manual of Safavid Administration	

1. 著者名 小笠原 弘幸	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 324
3. 書名 オスマン帝国 繁栄と衰亡の600年史	

1. 著者名 小笠原 弘幸	4. 発行年 2019年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 310
3. 書名 トルコ共和国 国民の創成とその変容	

1. 著者名 Nobuaki Kondo	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 208
3. 書名 Islamic Law and Society in Iran: A Social History of Qajar Tehran	

1. 著者名 大塚修	4. 発行年 2017年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 456
3. 書名 普遍史の変貌：ペルシア語文化圏における形成と展開	

1. 著者名 Osamu OTSUKA, Eva Orthmann & Petra G. Schmidl et. al	4. 発行年 2017年
2. 出版社 EB-Verlag Dr. Brandt	5. 総ページ数 295
3. 書名 Sciences in the City of Fortune: The Dustur al-Munajjimin and Its World	

1. 著者名 柴田 大輔、中町 信孝	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 400
3. 書名 イスラームは特殊か	

1. 著者名 インド文化事典編集委員会、真下裕之他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 770
3. 書名 インド文化事典	

1. 著者名 弘末雅士、清水和裕他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 350
3. 書名 海と陸の織りなす世界史：港市と内陸社会	

1. 著者名 井筒 俊彦、鎌田 繁、仁子 寿晴、橋爪 烈	4. 発行年 2018年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 440
3. 書名 イスラーム神学における信の構造	

1. 著者名 太田信宏、近藤信彰、二宮文子他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 329
3. 書名 前近代南アジア社会におけるまとまりとつながり	

1. 著者名 Nobuaki Kondo et al.	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 188
3. 書名 Crossing the Boundaries: Asians and Africans on the Move: Proceedings of the Papers Presented at Consortium for Asian and African Studies (CAAS) 7th International Conference	

1. 著者名 近藤 信彰	4. 発行年 2015年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 397
3. 書名 近世イスラーム国家史研究の現在	

1. 著者名 Nobuaki Kondo	4. 発行年 2015年
2. 出版社 ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 246
3. 書名 Mapping Safavid Iran	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>イスラーム国家の王権と正統性 http://www.aa.tufs.ac.jp/~n-kondo/Legitimacy/index.html</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	秋葉 淳 (Akiba Jun) (00375601)	東京大学・東洋文化研究所・准教授 (12601)	
研究分担者	小笠原 弘幸 (Ogasawara Hiroyuki) (40542626)	九州大学・人文科学研究院・准教授 (17102)	
研究分担者	二宮 文子 (Ninomiya Ayako) (40571550)	青山学院大学・文学部・准教授 (32601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	清水 和裕 (Shimizu Kazuhiro) (70274404)	九州大学・人文科学研究院・教授 (17102)	
研究分担者	真下 裕之 (Mashita Hiroyuki) (70303899)	神戸大学・人文学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	後藤 裕加子 (Goto Yukako) (80351724)	関西学院大学・文学部・教授 (34504)	
研究分担者	高松 洋一 (Takamatsu Yoichi) (90376822)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授 (12603)	
連携研究者	森本 一夫 (Morimoto Kazuo) (00282707)	東京大学・東洋文化研究所・教授 (12601)	
連携研究者	大塚 修 (Otsuka Osamu) (00733007)	東京大学・総合文化研究科・准教授 (12601)	
連携研究者	小倉 智史 (Ogura Satoshi) (40768438)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・助教 (12603)	
連携研究者	橋爪 烈 (Hashizume Retsu) (10613862)	千葉科学大学・薬学部・講師 (32525)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携 研究者	中町 信孝 (Nakamachi Nobutaka) (70465384)	甲南大学・文学部・教授 (34506)	